

## B

# 榛原郡五和村出身の画家 北川民次 に関する調査



北川民次出生地旧五和村周辺風景(2018年12月16日撮影)

### 【動機とリサーチ概要】

様々な場で作られ、管理される「作品群=資料群」への関心と「活動としての美術」についての参照事例を探す中で、静岡県榛原郡五和村出身の画家で、児童画運動に関わった北川民次(1894-1989)に関心を持った。

北川民次が過去に関わったいくつかの美術教育の場で制作された児童画群を、社会の中にすでに存在している「作品群=資料群」の事例として捉え、他のリサーチで調査している作品群と比較・参照可能な一例としてみる事ができるのでは無いか。そういった関心をきっかけに、北川民次の児童画に関するリサーチを行った。

北川民次の活動、児童画との関わりを整理し、北川民次と大井川周辺の接点を取材する過程で、今回のリサーチの対象地域である大井川周辺に児童画やそれに類する資料群が存在しないか尋ね回った。だがリサーチ期間の前半に、児童画と大井川の接点がほとんど無いことが判明したため、「北川民次に関する児童画」と「北川民次と大井川周辺との接点」の2つの視点からの整理にとどめ、後半からは並行するもう一つのリサーチ(大井川周辺の作品群の調査)に軸足を移した。

本レポートでは、リサーチ中に集めた情報を整理、書き留める。

なお、本レポートは2017年に大阪府立江之子島文化芸術創造センター enoco で行った同タイトルのリサーチと関連しており、以前のレポート(「vol.0」2018.3.31発行)の中の「H-2-4近代の美術教育の歴史」に、このパートは該当する。

(2019.03.07)

#### [北川民次の活動概要]

1894年に静岡県榛原郡五和村(現:島田市、前:金谷町)に生まれ、1989年に愛知県瀬戸市で亡くなった北川民次の95年の生涯を、拠点に注目した上で大きく4つに分けてみると以下ようになる。

1. 渡米まで(1884~1914)0~20歳\_金谷/東京
2. 南北アメリカ大陸(1914~1936)20~42歳\_ポートランド/ニューヨーク/キューバ/メキシコ
3. 帰国後すぐから疎開まで(1936~43)42~49歳\_金谷/藤枝/東京/瀬戸
4. 瀬戸に移住後(1943~1989)49歳~95歳\_瀬戸

#### [児童画の4つの場]

その中で、児童画の制作の場に直接関わるのは、2.の時期のメキシコの街「トラルパム」と「タスコ」の両野外美術学校、4.の時期の、東山動物園で行われた「夏期児童美術学校」と、その流れを受けての「北川児童美術学園」と整理できる。

1. トラルパム野外美術学校(1925-1932) 31-38歳\_メキシコ
  2. タスコ野外美術学校(1932-1936) 38-42歳\_メキシコ
  3. 夏期児童美術学校(1949-1951) 55-57歳\_愛知、日本
  4. 北川児童美術学園(1951-1951or?) 57-58?歳\_愛知、日本
- ※( )内の年号は北川民次の関わった期間(組織の存続年数では無い)

実際には、審査会への参加や絵本の出版、久保貞次郎との児童美術学校設立への動き(1931)など、児童美術教育に関するだけで大小複数の活動が重なり、戦後、愛知での児童美術学園の現場から次第に身を引いた60歳前後からも、発起人の一人として関わった創造美育協会(1952-)との関わりや著作の出版活動がある。そして様々なメディアを介した旺盛な諸活動(二科会への油画的発表の他、版画、壁画、陶磁器への絵付け、カレンダーを使った制作発表など)も並行して進められた。

しかし、作品制作の現場に直接立ち会い、その管理に直接関わるのは、上記の4つの場、時代・地域でいうとメキシコ革命(1910-1917)後20年間のトラルパム、タスコと、日中戦争・太平洋戦争後(1937-45)10年強の愛知の2箇所と整理することができる。

#### [作品群の管理]

メキシコと愛知での児童画群はどのように紹介や保管といった、ものとしての管理を受けたのか、メキシコ、愛知のそれぞれの児童画群に関わった人物(北川民次以外)を書き出してみる。

#### メキシコの児童画群：

国立美術学校の改革の試みからメキシコ野外美術学校を主導したラモス・マルティネス (1871-1946)、1933年タスコの北川の元へ訪れ、後に二科会へ北川を紹介したパリで活動した画家 藤田嗣治(1886-1968)、創造美育運動を展開した北川と親交の深い久保貞次郎(1909-1996)、北川版画作品の晩年の刷り師であり作品管理にも関わった浅川幸男(1927-201●)といった人物が作品の保管・管理、外部への紹介に関わった。

#### 愛知の児童画群：

東山児童画塾を手伝い、創造美育運動にも関わった画家滝本正夫の遺族に残された300枚以上の児童画は、「岡崎市こども美術博物館」に収蔵されている。詳細については今回未調査。

なお、「北川民次と児童画運動展」(2003)常葉美術館 の図録\*3に、メキシコの児童画の画像が8点と出展作品53点の作品情報が、愛知の児童画の画像が4点と出展作品13点の情報が掲載されている。



『北川民次展 故郷への愛を描く』(1997)展覧会記録ファイル複写(2018年12月17日撮影)

#### [北川民次と大井川周辺の接点\_情報]

今回の滞在先で大井川周辺、特に五和村(旧金谷町、現島田市)と北川民次の接点は、生前の3つ時期と、没後の展覧会や作品に整理できる。

#### 生前：

渡米まで(1884~1914)0~20歳

帰国後すぐから疎開まで(1936~43)42~49歳

晩年(1970年代~)\_70歳頃~

#### 没後展覧会：

『北川民次展 故郷への愛を描く』

1997年10月8日~26日 金谷町生きがいセンター 夢づくり会館

『第11回特別展「北川民次」展』

1998年1月24日~3月8日 島田市博物館

『静岡県立美術館コレクション「日本絵画の400年~狩野派から現代絵画まで」』

2011年1月15日~2月27日 島田市博物館

#### コレクション(島田市博物館)：

「バツタと自画像」(1977) 油彩

「静岡風景(秋)」(1936) 水彩

「ばら」(1973) リトグラフ

「ばら」(1956) リトグラフ 白黒のもの

「魚を売る女」(1962) リトグラフ

「子供をだいた二人の女」(1958) リトグラフ

※島田市博物館図録より

#### 制作された作品：

「静岡風景」(1936)

「静岡風景(秋)」(1936)

「初夏の茶園(遠州牧之原にて)」(1972)

「茶畑と母子」(1975)

「茶畑(A)」(1976)

「茶畑」(1976)

など

#### [北川民次と大井川周辺の接点]

生前の3つの時期のうち、渡米までの作品は見つからない。

存在する可能性は限りなく低い、万が一と思ひ、北川民次自身の児童期の絵やそれに類するものが無い、取材で訪れた北川家の生家や、現在管理されている作品群の調査で地元の五和小学校を訪れた際に尋ねてみてが、やはり100年前の児童の作品が残っているという事は無かった(五和小学校で年代が確認できた最も古い作品で1976年。小学校自体は現在の校舎では無いが存在した。現校舎は1979年より。民次が6歳になる1890年当時の就学率は49%)。

第2の時期である、メキシコから帰国後すぐの時期の作品には「静岡風景」がある(複数点)。水彩であることから、取材した現場で描かれたことも想定できるが、定かでは無い。

民次は帰国後、静岡の生家に身を寄せたが、そこに長く住むことは出来ず、藤枝の兄の家や東京へと移り住んだ後、1943年妻の実家である瀬戸に疎開、その後も瀬戸を拠点とする。

晩年にあたる1970年代半ば、80歳前後になり故郷の静岡の風景を描く(油彩)。この頃には、生家にも訪れ、旧知の人々に会いにいくなど親交を深めていた話を北川家にて伺うことが出来た。また、第2の時期から生家とのやりとりが全くなくなった訳では無かった、という話も伺うことが出来た。

晩年に徐々に評価が高まり、1986年メキシコ政府から同国との友好関係に貢献した人物に送られるアギラ・アステカ勲章を送られた翌1987年、亡くなる2年前に出生地 金谷町でも名誉町民となる。

没後は今回調べられた中では、北川民次を金谷周辺で紹介した展覧会は3つあった。1997年と1998年に金谷と島田で続いて開催された個展と、静岡県立美術館のコレクションの紹介を行った2011年の展覧会がそれに当たる。今回の取材の中で、1997年の旧金谷町での展覧会の資料を見ることが出来た。図録作成が出来なかった展覧会を、当時の担当職員の方が個人的に記録として残しておいたものになる。展覧会制作時における思い出話として作品管理をされていた浅川幸男さんのお話を伺うことが出来た。



『北川民次展 故郷への愛を描く』(1997)展覧会記録ファイル]複製(2018年12月17日撮影)

■参考図書：

- ・「北川民次展」図録(1996)愛知県美術館\*1
- ・「第11回特別展 北川民次展」図録(1998) 島田市博物館\*2
- ・「北川民次と児童画運動 展」図録(2003)常葉美術館\*3
- ・「現代美術教育業書1 北川民次指導 メキシコ児童画集」久保貞次郎編(1978)\*4
- ・北川民次美術教育論集 上巻-「絵を描く子供たち」「子どもの絵と教育」創風社(1998)\*5
- <「絵を描く子供たち」(1952)、「子どもの絵と教育」(1953)>
- ・北川民次美術教育論集 下巻-美術教育とユートピア(1998)\*6
- <「美術教育とユートピア」(1969)>

■取材先：

- 島田市博物館2018年12月16日(日)
- 島田市役所 2018年12月17日(月)
- 北川家 2019年2月13日(水)